

東京都立足立工科高等学校長
塩崎 智之

令和 7 年度東京都立足立工科高等学校経営計画

経済のグローバル化やDXの推進が加速度的に進む中、総合技術科を設置した工科高校として、ものづくり技能、デジタルスキル、グローバルスキルを身につけた新たな価値を創造できる、ものづくりの産業基盤を支える人材を育成する。また、誰一人取り残さず、すべての生徒が、将来への希望をもち、地域や社会に貢献して未来を切り拓くことのできる人材となれるよう育成できる高校を目指す。

I 目指す学校像(スクール・ミッション、スクール・ポリシー)

1 スクール・ミッション

自ら学び考え行動する態度を備え、想像力豊かな人間性や、工業技術を通して地域や社会に貢献する人材の育成を目指し、専門高校の特色を生かした地域交流・連携の推進を通して、心身共に健康で、自信と誇りをもち、望ましい職業観・勤労観をもった「生きる力」のある工業人を目指す。

2 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ① 人権教育の全体計画を踏まえ、教育活動全体を通して他者を思いやる人間性豊かな精神を育成し、好ましい人間関係をつくるとともに、生命を尊重し、規範意識のある態度を育成する。
- ② 基礎学力を定着させ、専門性の深化を図るように授業内容を充実させ、生徒の基礎学力の定着に努める。
- ③ 資格取得に向けた指導等を通して努力すれば目的が達成できるという経験を積むことにより、自信をもたせ、自己を高める気持ちを育成する。
- ④ ホームルーム、生徒会活動、学校行事を通して、社会生活に必要な基本的生活習慣や探求力、協調性を身につけさせ、社会に貢献できる態度を育成する。
- ⑤ 三年間を通して、組織的・計画的、系統的なキャリア教育を行い、自ら進路を決定できる態度を養い、望ましい職業観・勤労観を育成する。
- ⑥ 自立活動の心理的な安定、人間関係の形成、コミュニケーション能力を育成する。

(2) カリキュラム・ポリシー

- ① 基礎・基本の習得を徹底するとともに、生徒個々の能力を伸ばす指導を行う。
- ② 言語活動を充実させるとともに、アクティブ・ラーニングによる授業を実施し、生徒が自ら調べ、考え、適切に発表・報告する能力を育む。
- ③ 生徒自身が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れ、自主的に学ぶ態度を育む。
- ④ 工業に関する専門知識、技能を習得し、学び続ける態度を養う。
- ⑤ ICT機器等を活用した授業により、生徒の興味・関心を引き出し、学習意欲を育む。
- ⑥ 課題研究を二年、三年と継続的に実施することにより、プレゼンテーション能力、生徒自らが課題を発見し解決する意欲と能力を育む。
- ⑦ 学校行事やボランティア活動等を通して、主体性や協働意識、人格尊重と社会に貢献する精神を育む。

(3) アドミッション・ポリシー

- ① 「ものづくり」に興味・関心をもち、将来、社会に貢献できる職業に就くことを希望している生徒

- ② 個性や能力を伸ばし、工業技術を身に付け、各種資格取得に意欲的な生徒
- ③ 社会のマナーを守り、他人に対して思いやりがあり、クラスの中で協力し合うことができる生徒
- ④ 学校行事及び学級活動、奉仕活動、生徒会や委員会活動、部活動等に積極的に参加し入学後も活動できる生徒

Ⅱ 中期的目標とその達成に向けた方策

1 学校経営・組織体制の充実

将来の納税者を育てるという明確な目標のもと、教職員が一丸となって組織的に生徒の教育を行う。

2 学習指導の充実

学習指導要領に基づく学力観とDXの推進に基づく教育課程の編成、デジタルとリアルを融合させた教育を進め、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる。また、総合技術科として専門性の深化と、学習習慣の改善に向け学習環境・学習支援の充実を図る。

3 進路指導の充実

進路主催事業を組織的・計画的・系統的に行い、個別最適なキャリア教育を推進し、生徒の進路実現を図る。

4 生活指導の充実

基本的生活習慣の定着、生命の尊重や規範意識の醸成、多様な困難を抱える生徒の支援等に取り組み、社会に有為な人材を育成する。

5 特別活動、部活動の充実

学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動等において、共通の目標に向かって取り組む活動を推進し、生徒の主体性、協調性を育て、課題や困難を乗り越える力を育てる。さらに、生活習慣を確立させるとともに、生涯にわたる体力の維持向上、心身の健康の保持増進に努める。

6 地域関係機関・学校PR

地域関係機関との連携を図り、地域から信頼され、頼りにされる取組を行う。また、SDGs（持続可能な社会）を推進し、環境保全や防災に貢献する意欲をもったリーダーを育成する。募集・広報活動を充実させ、本校の教育を分かりやすく明確にして発信し、応募倍率の向上を図る。

7 働き方改革の推進

生徒の成長や進路実現を図るため、教職員の心身の健康と職務に誇りとやりがいをもって取り組める環境を整備し、質の高い学校教育を実現する。

Ⅲ 今年度における取組目標とその達成に向けた方策

○ 教育活動の目標と方策

経営目標達成に向けて、教職員が一丸となって生徒を育てる教育活動を展開し、以下の目標のもと、方策の確実な履行に努める。

1 学校経営・組織体制

(1) 目標

教職員が「チーム足立工科」の自覚をもって、ライフ・ワーク・バランスよく学校経営計画を着実に履行していく。

また、分掌・学年・教科・経営企画室の横断的な連携を図り、企画調整会議を基軸とした学校経営を行う。

(2) 方策

① 学校経営計画に基づき分掌・学年・教科・経営企画室は互いに連携・協力して、計画達成に向けた分掌運営・学年運営・教科指導・経営企画室運営を行う。そのために各主任等が進行管理を行い、教育活動を向上させる。また、PDCAのマネジメントサイクルを事業ごとにその都度機能させ、改善に生かす。

② 会議時間の短縮、各種委員会の少数精鋭化、校内研修会の定例化等により、仕事の進め方を工夫し効率化を図る。

③ 「統合型校務支援システム」「定期考査採点・分析システム」等システムの活用をICTリーダー・支援員を中心に取り組み、業務の迅速化・効率化を図り、教職員の在校時間を縮減する。

④ 教職員一人一人がその職責を十分に理解するとともに倫理観や規範意識等を一層高め、「教職員の服務に関するガイドライン」に基づき、服務の厳正に努める。

2 学習指導

(1) 目標

「キャリアパスポート」の移行により、中学校段階での生徒の学習状況を詳細に把握した上で、「都立高校学力スタンダード」「Tokyoスマート・スクール・プロジェクト」「Next Kogyo Start Project」「校内別室指導推進事業実施校」「高等学校DX加速推進事業」等に基づく教育課程の編成やデジタル活動の充実、教科指導の方法と内容を改善し、「新たな教育のスタイル」を模索していく。また、工科高校生の「資格取得支援制度」を活用した資格取得の充実や検定受験を促進し、就職試験に合格できる学力の向上を意図的・計画的に推進する。そして、YSWや3名のSC、外部支援員と連携して不登校や特別な支援を要する生徒に対し、別室活用を始めとする学びの継続を支援する。

(2) 方策

- ① 「キャリアパスポート」により、生徒の学習習慣、学習環境等を把握して学びなおし、振り返りを取り入れた各科目の年間指導計画を作成する。
- ② 「基礎学力診断テスト」に基づき、全学年で学力向上プランによる学力分析を実施して生徒の学力の実態を把握し、改善プランを立て、生徒の基礎学力向上を図る。
- ③ 「Tokyoスマート・スクール・プロジェクト」に基づき、生徒の志の高い進路を実現するために、「定期考査採点・分析システム」や学力テスト等のデジタルデータによる分析を進路指導部、教科主任会、学年で連携して実施し、授業改善に生かす。一人1台端末等ICTの活用、単元内自由進度学習を取り入れた授業を推奨するなど、学ぶ楽しさ、振り返る、わかる、できる等を実感できる授業、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習に向き合う力が身に付く授業を実践する。
- ④ 「Next Kogyo Start Project」に基づき、先進校視察や民間企業との連携により、工業IT科目(工業情報数理)やPBL(課題解決型学習)の充実を図る。
- ⑤ 「校内別室指導推進事業実施校」に基づき、教室や授業に馴染めない等、多様な支援を必要とする生徒に校内別室の活用やICTを活用した授業や課題配信を行うなど、学びの継続に向けた体制を整備するとともに、生徒の一員として進級・卒業できるシステムを構築する。
- ⑥ 「高等学校DX加速化推進事業」に基づき、「課題研究」「実習」「プログラミング技術」等の工業科目の内容を計画し、課題に対してデジタルスキルを活用して解決できる能力や態度を育成する。DXを推進する上で必要な高性能のPC、3Dプリンター等を設置した教室を有効活用し、学びのアップデートを行う。
- ⑦ 資格取得や検定受験に向けた全体計画を作成し、資格取得支援制度の活用により、個別の資格取得計画を作成し、1学年から段階的に「ものづくり」や「学習」の楽しさを学ばせる方法や内容で行い、学校全体で資格取得や検定受験に向けて挑戦する意欲を高める。
- ⑧ 教員相互の授業研究や民間企業、関係機関と連携した授業力向上研修等、OJTを通して、学校全体の授業力向上に努める。
- ⑨ 高大連携事業として「スタディーサポート」事業を計画し、教員を目指す大学生による生徒の復習や課題、定期考査対策、夏季集中講座、検定受験対策等、学習を支援する活動を年間通して継続的に実施する。

3 生活指導

(1) 目標

地域や社会に貢献し未来を切り拓く人材を育成するため、挨拶・清掃の励行、健康・安全の推進を視野に入れた生活規律の確立を図るとともに、多様性を受け止め、様々な立場の人とともに社会生活を送る上で必要な責任感、協調性、コミュニケーション能力、思いやりの心を身に付けた生徒を育成する。そのために、生活・保健部を中心とした組織的な生活指導を行い、遅刻指導及び授業規律の徹底を図ることで、規範意識と望ましい生活習慣を確立する。また、学校行事や部活動等を通して、望ましい人間関係を確立し、一つの目標に向けて互いに支え合い高め合う能力や態度を育成する。さらに、教育相談体制を整備し、誰一人取り残さない意識のもと、生徒への適切な支援を行う。また、社会体験活動により、社会の一員としての自覚や責任を育てるため、学校安全計画の全体計画に基づき、全教育活動を通して防災教育、交通安全教育、情報リテラシー教育、地域交流等を計画的・継続的に行う。

(2) 方策

- ① 本校の基準に基づき、全教職員の共通理解のもと、基本的な生活習慣、挨拶・清掃の励行、時間厳守、授業規律等に向けた指導、身だしなみ、ルール・マナー等の指導を組織的・継続的に行う。
- ② 「SNS学校ルール」に基づき、情報リテラシー、情報モラルを育成する。
- ③ いじめ防止委員会・教育相談委員会の毎月の実施及び、SC、SSC、YSW等の継続的な活用を通して生徒の悩み・トラブルの解決に努め、生命尊重に資する教育を推進し、生徒の健全育成に向け、家庭・関係機関と連携し、学校全体の相談機能の充実を図る。
- ④ 特別支援教育の推進により、特別な支援を要するケースには、ホームルーム担任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、SC、YSW等によるケース会議を効果的に機能させるとともに、関係機関との連携を図り、支援体制の充実に努める。
- ⑤ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケートを年3回実施し、いじめの早期発見及び未然防止に組織的に取り組む。
- ⑥ 人権尊重の精神及びコンプライアンスの徹底を図り、体罰・暴言等の防止に組織的に取り組む。
- ⑦ 学校安全計画の全体計画に基づき、防災士の資格を有する生徒を中心に「防災チーム」を結成し、避難訓練、東京都水道局と連携した防災教育、足立区の広域総合防災訓練・水害対策避難所運営訓練等をはじめ、警察署による交通安全運動、自治会による挨拶運動・祭事、近隣小学校の学校行事等に運営面で参加し、地域社会に貢献する人材を育成する。
- ⑧ 足立区若年者支援協議会や中高接続会議、若者サポートテラス等との連携協力により、中途退学した生徒の再チャレンジを支援するとともに、退学・転学の未然防止に向けたサポート体制を整備する。

4 進路指導

(1) 目標

DXの推進により、産業社会が加速度的に変革している現状を踏まえ、将来にわたって持続可能な職業を選択し、生涯にわたって働き続けることができる能力や態度を育成する。そのために、進路指導全体計画に基づき、進路指導に必要なデータの収集・共有・活用を図り、工業系大学等への進学、公務員、就職試験を課す優良企業への就職等、生徒の進路希望実現に向けた指導を、進路指導部を中心として全教員で行う。

(2) 方策

- ① 「進路指導の手引き」により、生徒の能力や適性に応じた進路指導の一層の充実を図り、進路に係る数値目標達成に向け、進路指導部・学年・教科が一体となった進路指導を計画的に行う。
- ② 生徒に高い進路目標をもたせ、モチベーションを高めるとともに、進路指導部が企画立案した進路ガイダンス、履歴書指導、面接指導、志望校・就職先検討会の実施を通して、進路実現に向けたきめ細かな指導を行う。
- ③ 進路を決めることへの悩みや不安のある生徒に対して、担当の教員を配置し進路指導の相談や進路に向き合う環境を整備する。
- ④ 企業での技能習得型インターンシップ、連携大学での研修室インターンシップ、東京都中小企業振興公社、足立区産業界と連携したインターンシップのいずれかを2学年全員で実施する。
- ⑤ 生徒の進路実現のため、東京都商工会議所等と連携した教員研修を実施するとともに、進路指導部を中心にハローワーク足立及び足立区産業経済部、大学、専門学校等と連携して組織的に取り組み、就職内定率100%、大学・専門学校の進学希望達成率100%を目指す。

5 特別活動、部活動

(1) 目標

集団活動を通して、本校の生徒及び社会の一員として、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。また、生徒の体力の維持向上、健康の保持増進に組織的・計画的に取り組む。

(2) 方策

- ① 学校行事では、教員の指導・支援により委員会活動を軸にして、生徒による主体的な企画・運営を進める。体育祭は、競技や応援等を通して、クラス・学年の枠を越えた生徒間のつながりを育てる。文化祭では、ものづくり等工科高校の特色を活かした企画を増やし、本校の教育や生徒の姿を地域や中学校等にPRして、工科高校生としての自覚や誇りをもてるよう育てる。
- ② ホームルーム活動では、個人目標やクラス目標、自己PR等、仲間同士の望ましい人間関係を形成し、帰属意識や連帯感を育てる。
- ③ 生徒会活動では、生徒会役員・委員会による校則や学校生活の改善について、生徒が主体的に活動することを

支援し、自主・自律の気持ちを醸成させ、誇りと帰属意識を高めるよう育てる。

- ④ 部活動では部員同士の協調性、連帯感を深めさせ、互いに切磋琢磨し、高め合う姿勢や態度を育む。また、初心者や苦手意識のある生徒でも、参加できるように運営面を改善し、部活動の加入率を高くする。
- ⑤ 部活動指導員の配置、部活動振興予算重点配付等を活用した部活動の充実を図る。社会の形成者としての能力や態度の育成、部活動の活性化、体力の維持向上及び心身の健康の保持増進、豊かな人間関係づくりに組織的に取り組む。
- ⑦ 成年年齢の引下げに伴い、関係機関と連携し、生徒自身が一層社会に関心をもち、社会の一員としての自覚を高め、トラブル等に巻き込まれないための授業や講演会等を行うと共に消費者教育の充実に努める。

6 募集・広報活動

(1) 目標

本校を第1希望とする生徒を定員以上確保する。そのために、本校の教育を広く都民及び中学校、中学生、保護者に発信し、本校の教育活動に対する理解や信頼を促進する。

(2) 方策

- ① 学校案内パンフレットを刷新し、在校生や卒業生の学校紹介、体験談の掲載等、中学生・保護者にとって工科高校に興味・関心がもてる内容に更新する。
- ② ホームページで学校の特色を積極的に発信し、生徒の学校生活の様子や、部活動、資格取得、地域貢献活動等生徒が頑張っている様子を掲載し、本校の特色ある教育活動の様子を広く都民に発信する。
- ③ 「夏休み工作スタジオ」、中高連携授業等ものづくり教育のすそ野を広げる取組を実施する。
- ④ 中学校訪問を足立区及び隣接区の学校を中心に全教員で計画的に行い、本校の特色ある教育を広く発信する。
- ⑤ 足立区中学校を中心とした中学校と教員間での情報交換会を実施し、本校入学を希望している中学生と本校に入学した生徒の双方向型情報交換により、中学から高校への接続を円滑にし、中学校での進路指導、入学後の本校生徒への教育に反映させる。

7 働き方改革の推進

(1) 目標

教職員がライフワークバランスよく生きるために、職場環境の改善や職務の効率化等を外部機関やICTを活用して進め、教職員の心身の健康を増進させ、仕事に自信とやりがいをもって取り組めるように整備する。

(2) 方策

- ① 安全衛生委員会を毎月開催し、産業医の指導助言に基づき、教職員に対して健康講和や職場環境に関する校内点検等を行い、教職員の健康と職場環境の改善を進める。
- ② 会議時間の設定、端末での会議、会議のペーパーレス化等を行い、効率よく職務を進める。
- ③ 教職員一人ひとりの職務遂行上の課題に対して学校全体でカバーできる協力体制を整備する。

IV 数値目標

1 進路

(1) 大学・専門学校

進学希望者6名を全員合格させる。(前年度 大学・専門職大学9名、専門学校10名)

(2) 公務員

合格者数を2名とする。(前年度 公務員2名)

(3) 職業能力開発センター等

合格者数を3名とする。(前年度 合格者5名)

(4) 就職(学校斡旋就職内定率は100%とする)

就職内定者数38名とする。(前年度 就職内定者62名)

2 資格・検定

(1) 電気工事士

合格者を第一種電気工事士4名、第二種電気工事士22名とする。(前年度第一種2名、第二種10名)

(2) 製図検定

合格者を基礎製図5名、機械製図2名とする。(前年度 基礎製図4名、機械製図0名)

(3) 計算技術検定3級

受検者の合格者を50名とする。(前年度48名)

(4) 技能講習会等

溶接技能講習 23 名 (前年度 20 名※アーク溶接・ガス溶接隔年実施)

小型フォークリフト技能講習 1 t 以上 23 名 (前年度 18 名)

玉掛け技能講習 10 名 (前年度 7 名)

高所作業者技能講習 10 名 (前年度 6 名)

(5) 危険物取扱者

合格者を乙種 8 名、丙種 6 名とする。(前年度 乙種 3 名、丙種 0 名)

(6) 漢字検定

3 級以上の合格者を 6 名とする。(前年度 準 2 級 1 名、3 級 6 名)

(7) 英語検定

3 級以上合格者を 5 名とする。(前年度 2 級 0 名、準 2 級 0 名、3 級 3 名)

3 学校生活

(1) 学校評価アンケート

「身だしなみ指導等で礼儀正しく、安全で規則正しい生活ができているか」の質問に対して生徒の肯定的評価を 80%以上にする。 生徒 80% 保護者 80% 教職員 80% (前年度 生徒 74% 保護者 70% 教職員 59%)

(2) 部活動

部活動加入率を 70%とする。(前年度 78%)

4 進級率・卒業率

(1) 進級率

1 学年から 2 学年の進級率を 90%、2 学年から 3 学年の進級率を 100%とする。

(前年度 1 学年から 2 学年 72.5%、2 学年から 3 学年 93.1%)

(2) 卒業率

3 学年の卒業率を 100%とする。(前年度 3 学年の卒業率 100%)

5 入学者選抜応募倍率

入学者選抜応募倍率を推薦 1.1 倍以上、第一次募集 1.0 倍以上とする。(前年度 推薦 0.59 倍、一次 0.65 倍、)